

# 2026年3月期 連結決算業績

---



2026年5月25日

 片倉コープアグリ株式会社

設立	大正9年(1920年)3月14日
本社所在地	東京都千代田区九段北1-8-10
資本金	4,214百万円
従業員数	612名(単体)
	797名(連結)
発行済株式の総数	10,161千株
株主数	6,699名(2026.3.31現在)
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場





“たわわに実った農作物のしなり”のイメージをモチーフしてデザインしました。  
確かな技術で未来を創造していく企業をイメージしています。

■ : 作物や農業    ■ : 情熱、力強さ、太陽    ■ : 地球、水、空、大自然

基本理念  
行動規範

企業活動を通して社会に貢献する

- 創造と挑戦
- 安全と安心
- 公明正大
- 明朗闊達

コーポレートメッセージ    稔り豊かな未来に貢献したい

## 2026年3月期【連結】

（単位：百万円）

	実績	計画	計画比
売上高	42,651	45,000	▲2,348
営業利益	504	450	54
経常利益	371	240	131
特別損益	▲2,091	▲2,720	628
（内、構造改革費）	（▲1,980）	（▲2,640）	（659）
税引後当期純損失	▲1,227	▲2,000	772

### 売上高

肥料事業における販売数量の計画未達等により計画を下回った。

### 営業利益・経常利益

渋谷ビルの早期収益化に加え、肥料事業の原価改善等により計画を上回った。

### 当期純損失

構造改革費用に係る特別損失が想定を下回ったため、計画に対し縮小。

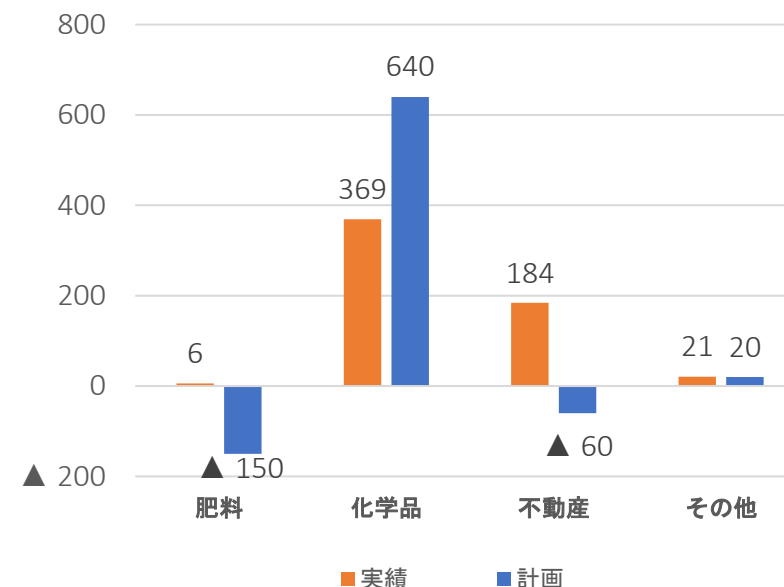
# 2026年3月期 セグメント別営業利益（中長期成長戦略との比較）

## 2026年3月期【連結】

（単位：百万円）

	実績	計画	計画比
肥料事業	6	▲150	156
化学品事業	369	640	▲270
不動産事業	184	▲60	244
その他事業	21	20	1
調整額	▲77	-	▲77
合計	504	450	54

（単位：百万円）



### セグメント別 概況

肥料事業：販売数量は計画に対して減少。

一方、営業利益は価格改定前に調達した原料及び製品在庫に係る増益要因により計画を上回った。

化学品事業：リン酸及び飼料用リン酸カルシウム、合成マイカの販売数量未達等により、計画を下回った。

不動産事業：昨年8月に竣工した賃貸用ビル「KCA SHIBUYA bldg.」の早期収益化により、計画を上回った。

# 2026年3月期 連結業績サマリー（前期比）

（単位：百万円）

連結	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績		2026年3月期 （構造改革費用等除く実態ベース）※	
			対前期		対前期
売上高	41,369	42,651	▲1,282	42,651	1,282
営業利益	650	504	▲145	—	—
経常利益	672	371	▲300	—	—
当期純利益 （▲は損失）	350	▲1,227	▲1,577	458	108

※構造改革費用等を除く実態ベースの2026年3月期当期純利益は実効税率を基に算出した概算値

## 売上高

肥料事業における販売数量の増加、原料価格高騰に伴う肥料価格の改定により前期対比で増加。

## 営業利益・経常利益

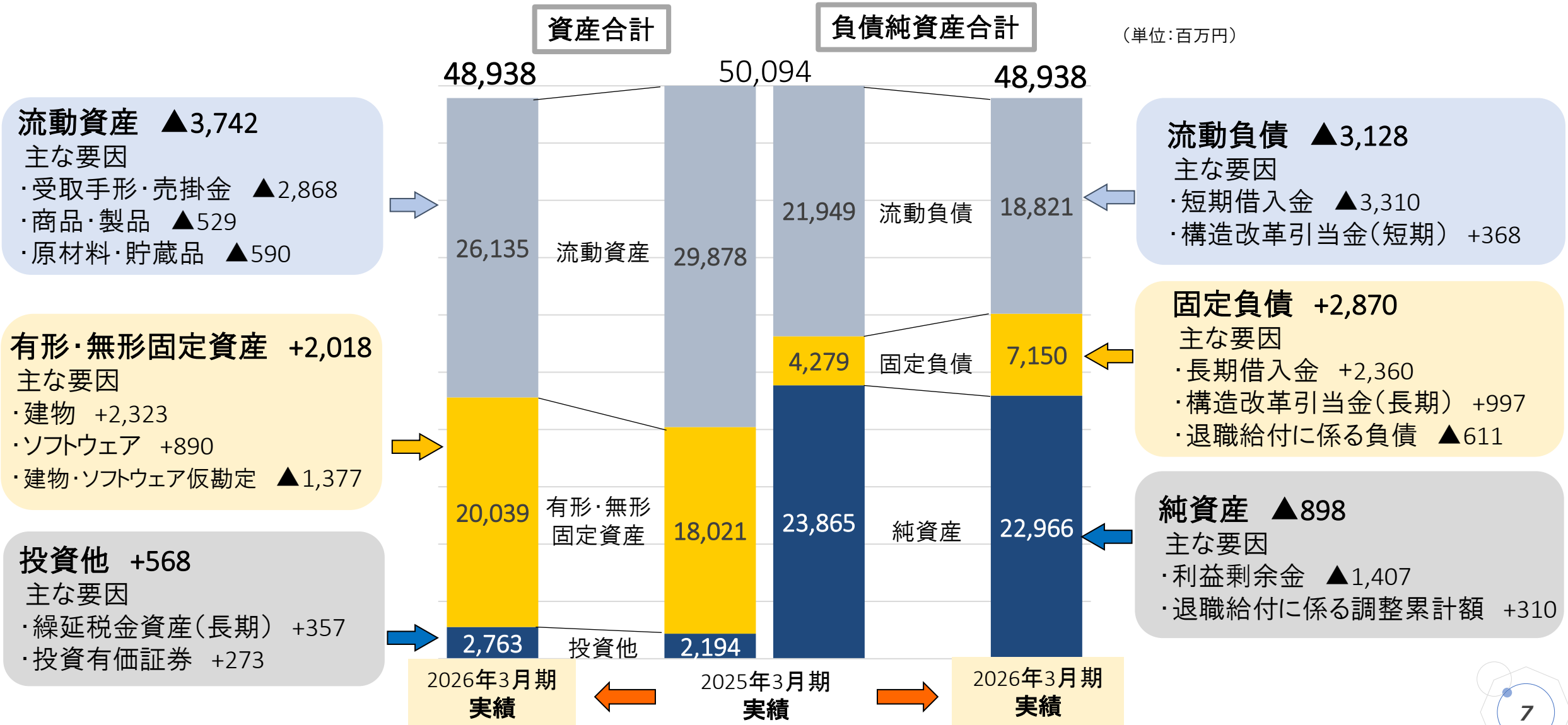
肥料事業におけるシステム関連費用の増加や棚卸資産の評価に係る影響、化学品事業の販売数量減少等が影響し、前期対比で減少。

## 当期純利益

構造改革費用（特別損失）の計上により純損失を計上。  
一方、当該一時費用を除くベースでは、前期対比増益。

# 連結貸借対照表増減

(単位:百万円)



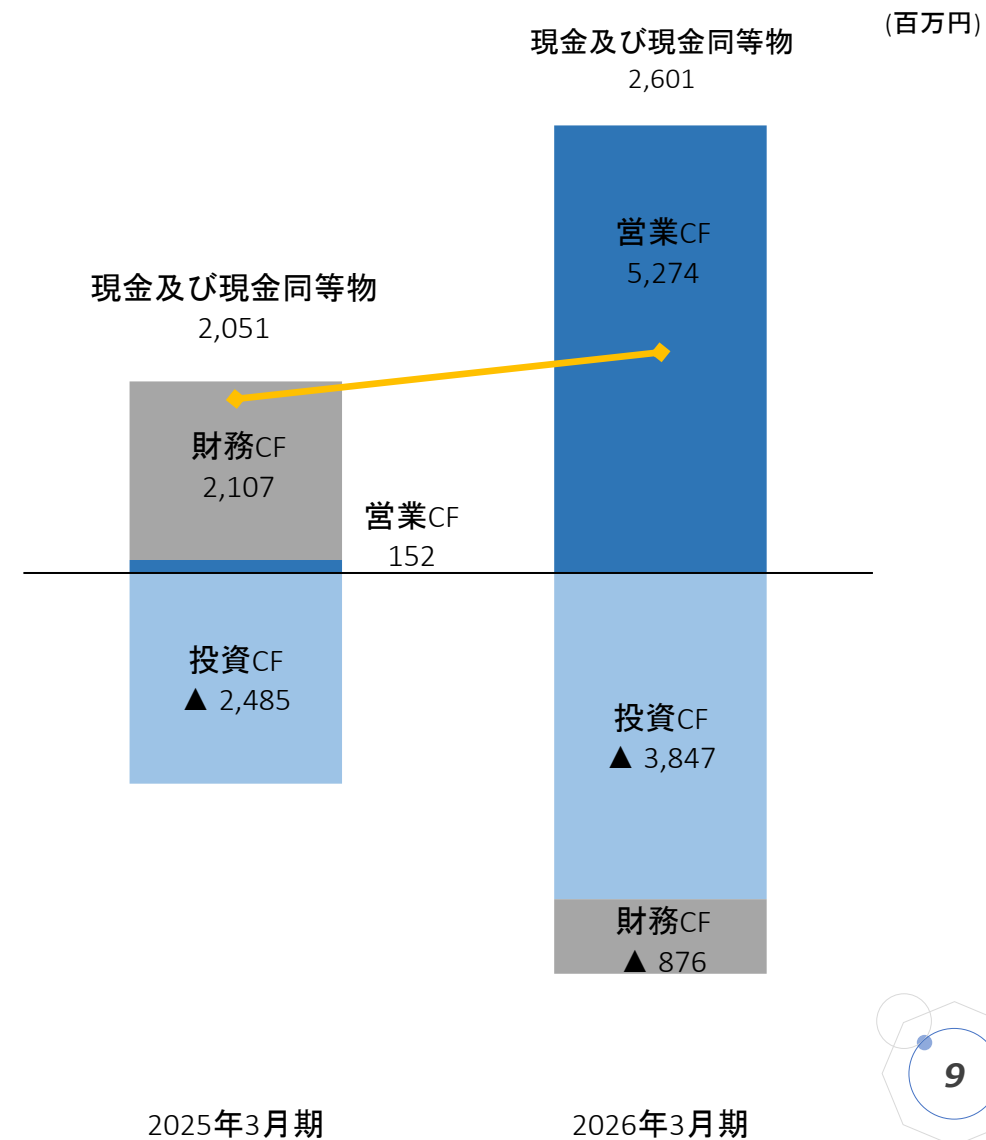
## 主要経営指標

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期
資本金(百万円)	4,214	4,214	-
総資産(百万円)	50,094	48,938	▲1,155
純資産(百万円)	23,865	22,966	▲898
有利子負債(百万円)	14,510	13,920	▲590
ネット有利子負債(百万円)	12,404	11,264	▲1,140
1株当たり純資産(円)	2,658.36	2,558.31	▲100.05
自己資本比率(%)	47.5	46.8	▲0.7
自己資本当期純利益率(%) (ROE)	1.5	▲5.3	▲6.7
自己資本当期純利益率(%) (ROE) ※実態利益ベース	1.5	1.9	0.4
負債資本比率(DER)	0.6	0.6	-
配当性向(%)	51.2	-	-
総資産当期純利益率(%) (ROA)	0.7	▲2.5	▲3.2
総資産当期純利益率(%) (ROA) ※実態利益ベース	0.7	0.9	0.2

# 連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

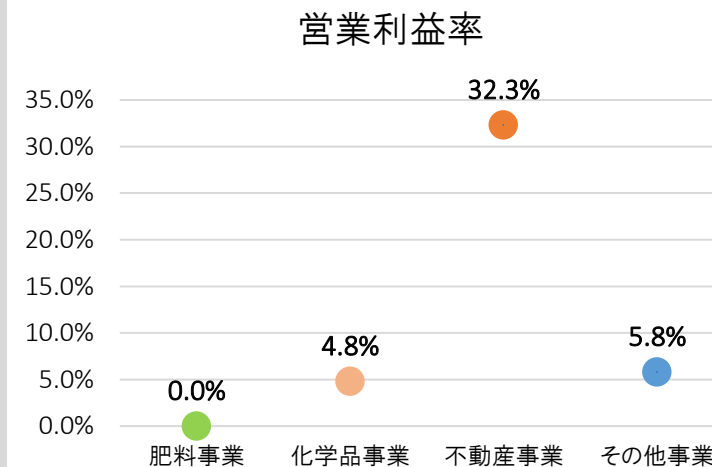
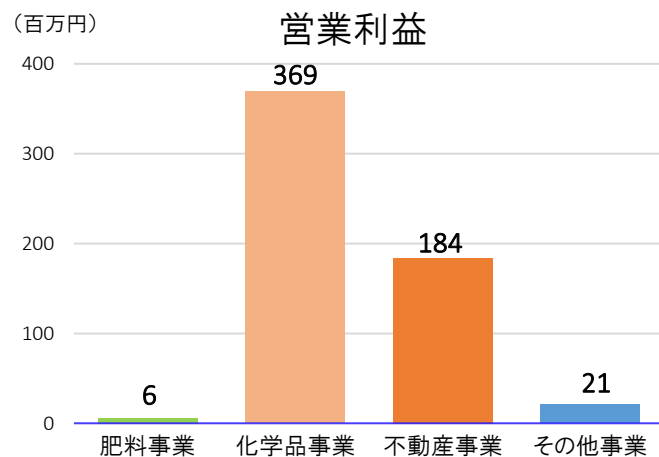
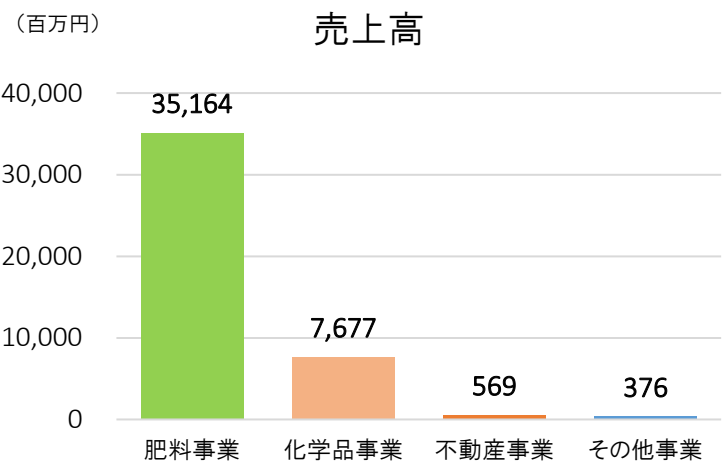
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績
営業キャッシュフロー	152	5,274
税金等調整前当期純利益	627	▲1,719
減価償却費	1,286	1,437
売上債権の増減額(増加:▲)	425	2,868
棚卸資産の増減額(増加:▲)	▲702	670
仕入債務の増減額(減少:▲)	▲1,438	▲627
未払金の増減額(減少:▲)	5	339
長期前払費用の増減額(増加:▲)	▲236	110
法人税等の支払額	460	▲230
構造改革費用	-	1,980
その他	▲275	446
投資キャッシュフロー	▲2,485	▲3,847
財務キャッシュフロー	2,107	▲876
現金及び現金同等物の期末残高	2,051	2,601



# 2026年3月期 セグメント別業績（前期比）

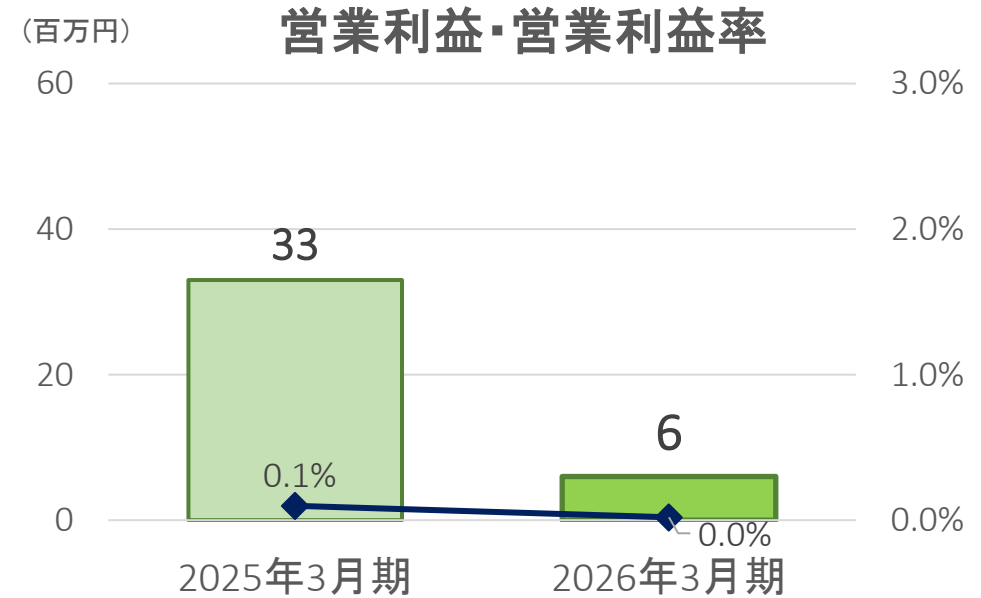
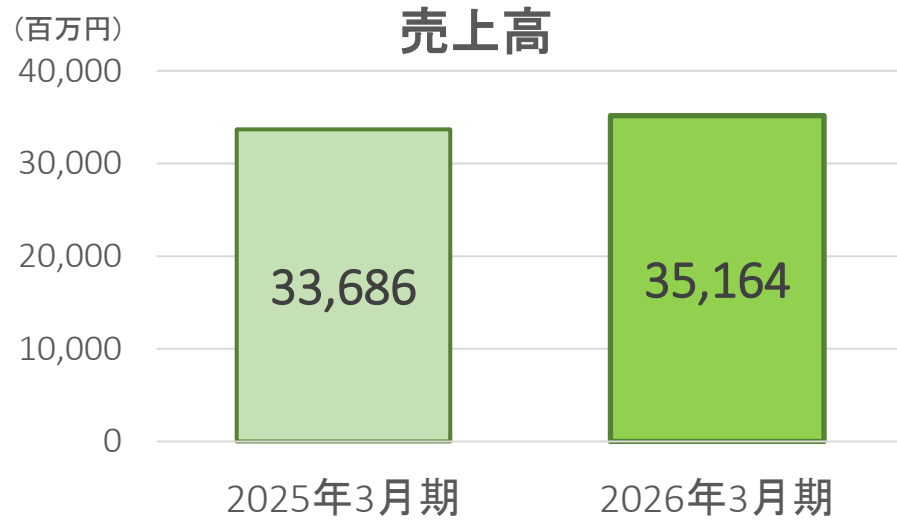
（単位：百万円）

	2025年3月期 実績		2026年3月期 実績			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	前年対比	
					売上高	営業利益
肥料事業	33,686	33	35,164	6	1,478	▲26
化学品事業	7,791	693	7,677	369	▲113	▲324
不動産事業	307	▲5	569	184	261	189
その他事業	372	26	376	21	3	▲4
調整額	▲787	▲97	▲1,136	▲77	▲348	19
合計	41,369	650	42,651	504	1,282	▲145





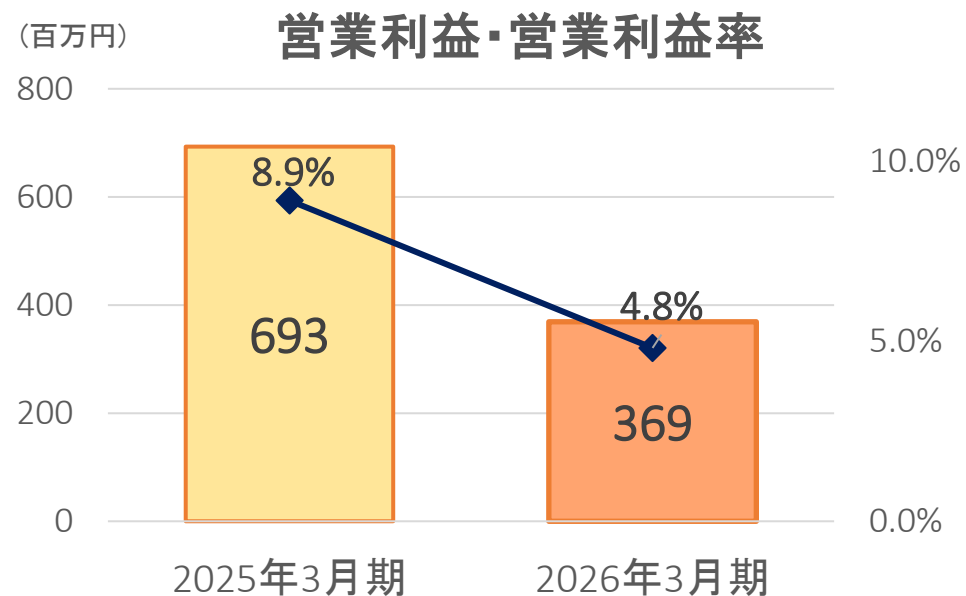
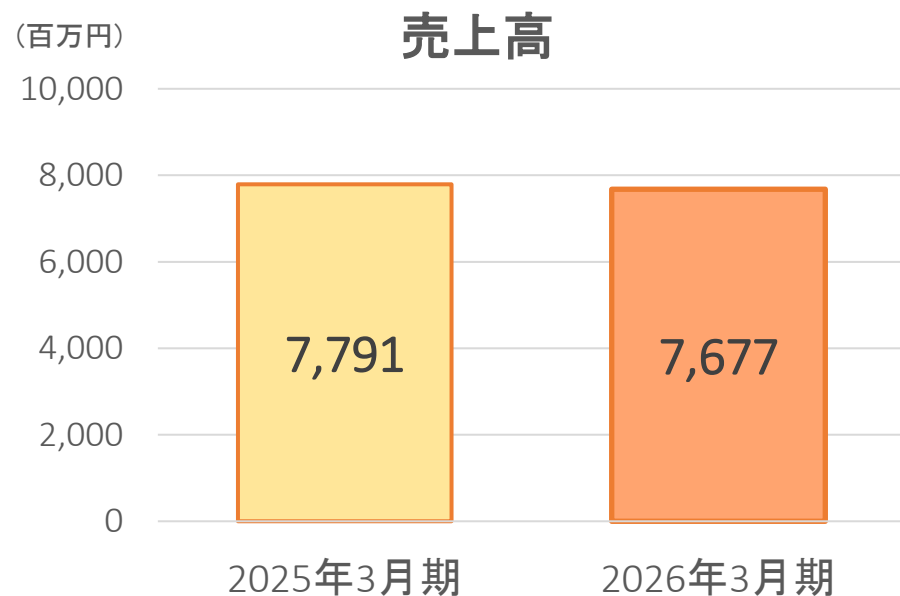
肥料事業



売上高: 35,164百万円(前年同期比4.4%増) → 主な要因: 販売数量の増加  
原料価格高騰に伴う肥料価格改定

セグメント利益: 6百万円(前年同期比79.0%減) → 主な要因: システム関連費用の増加  
棚卸資産の評価に係る影響等

## 化学品事業

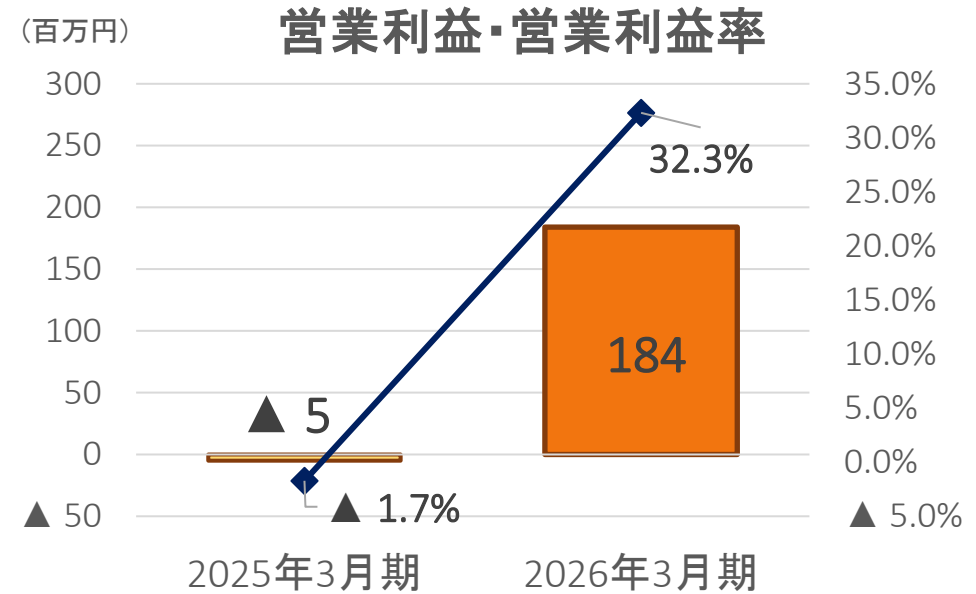
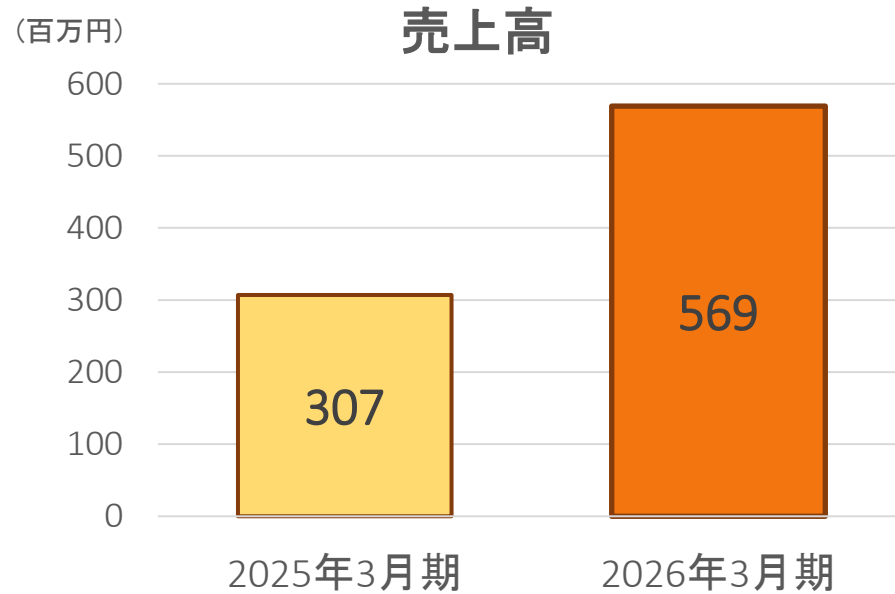


売上高 : 7,677百万円(前年同期比1.5%減)  
セグメント利益: 369百万円(前年同期比46.7%減)

【主な要因】 リン酸及び飼料用リン酸カルシウムの販売数量の減少



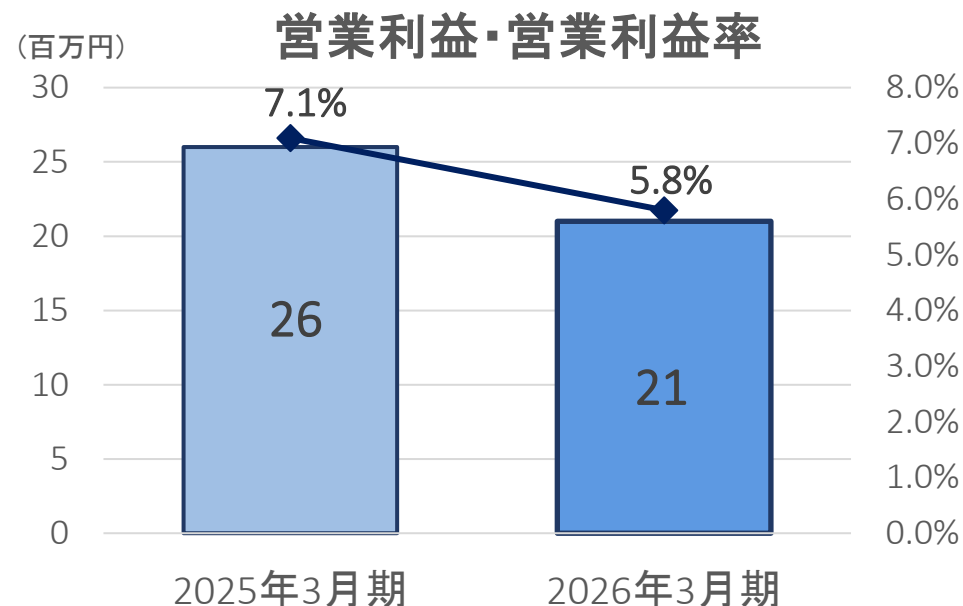
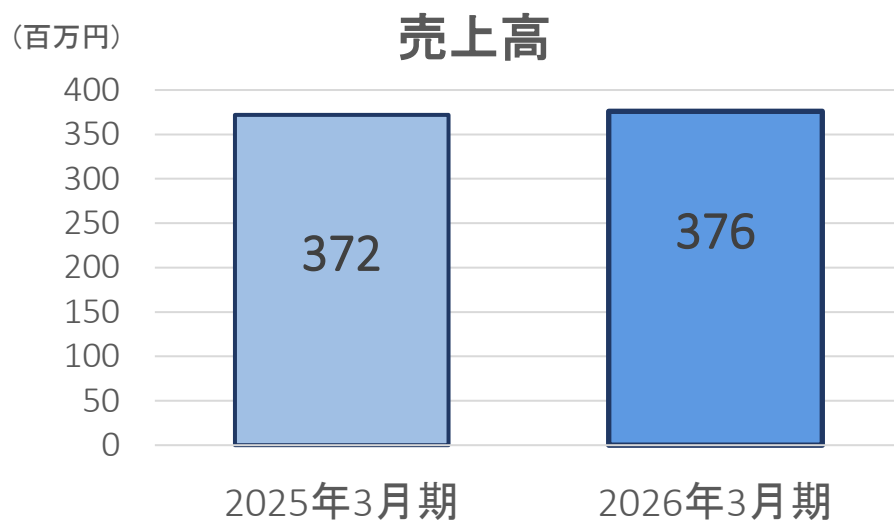
## 不動産事業



売上高 : 569百万円（前年同期比85.2%増）  
セグメント利益 : 184百万円（前年同期はセグメント損失5百万円）

【主な要因】 賃貸用ビル「KCA SHIBUYA bldg.」の運用開始

その他の事業



売上高: 376百万円(前年同期比1.0%増)

→ 主要要因: 水産エキスの販売価格改定

セグメント利益: 21百万円(前年同期比17.4%減)

→ 主要要因: 原価率の上昇

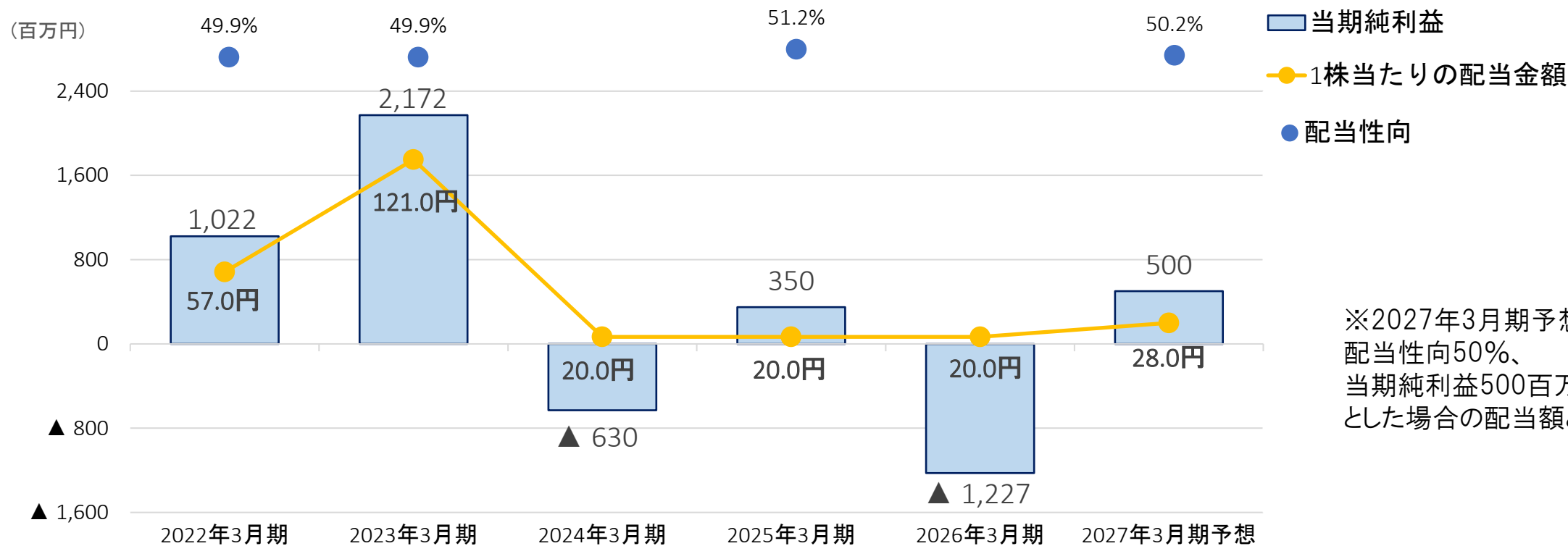


# 株式の配当金推移

株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、安定的かつ継続的に業績に見合った成果の配当を行うことを基本とし、引き続き配当性向50%を目標といたします。構造改革初年度(2026年3月期)は改革に伴う一時的な費用の計上により赤字となりましたが、株主への安定的な還元を重視し、1株当たり20円の配当を実施する方針です。

(特殊要因がある場合にはこれを考慮して配当金額を決定することがあります。)

### 当期純利益・1株当たりの配当金額・配当性向 推移



※2027年3月期予想は、配当性向50%、当期純利益500百万円とした場合の配当額となります。

# 2027年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

連結	2026年3月期 実績	2027年3月期	業績予想	2028年3月期 中長期成長戦略(3年目)
			対前期	
売上高	42,651	46,000	3,348	47,000
営業利益	504	800	295	1,090
(内、肥料事業)	(6)	(▲360)	(▲366)	(▲290)
(内、化学品事業)	(369)	(780)	(410)	(940)
(内、不動産事業)	(184)	(400)	(215)	(420)
経常利益	371	700	328	1,000
当期純利益	▲1,227	500	1,727	500

前期において営業利益等が計画を上回るなど着実に進捗している状況を踏まえ、中長期成長戦略3年目(2028年3月期)の目標達成に向け、その2年目として、引き続き各施策を着実に推進してまいります。

※肥料事業の赤字は、収益力強化に向けた構造改革期間中の一過性の損失。

※直近の中東情勢の緊迫化に伴う原材料・資材の調達リスク及び価格上昇等の当社業績に与える影響につきましては、現時点では合理的な算定が困難であることから、本業績予想には織り込んでおりません。今後、業績に重要な影響を及ぼすと判断される事象が生じた場合には、速やかに開示いたします。

稔り豊かな未来に貢献したい  
***<https://www.katakuraco-op.com>***